

# 国際業務の 窓辺から

CLAIR 経験者からの  
メッセージ



## 冷や汗から得た経験

和歌山県商工観光労働部観光局観光交流課 副主査 芝 紀之

私は2014年4月から2016年3月までクレアシドニー事務所に勤務していました。

まず、オーストラリアは、移民を多く受け入れており、さまざまな人種が入り混じり、外見だけではオーストラリア人かどうか分かりません。アジア系のオーストラリア人も多いほか、スーツにターバンを巻いた人やヒジャブを被った女性など多くの文化が共存しているため、ビジネスマンが行き交うシドニーのど真ん中で、私が浴衣を着てタクシーを待っているぐらいでは、誰も気に留めません。また、中国語なまり、インドなまりなどさまざまなアクセントの英語が話せされており、発音も含めてオーストラリア人が許容する英語の範囲が広いほか、私のような下手くそな英語にも慣れており、こちらが真剣に話せば、真剣に話を聞いてくれます。

このような他者の英語に対して寛容なオーストラリアで2年間過ごしたわけですが、私生活でもそうでしたが、仕事で最も苦労したことはやはり英語でした。シドニー事務所では、姉妹都市の交流行事支援、オーストラリアの多文化共生施策を学ぶセミナー、主に法律や規制などに関する調査業務などを担当しました。業務を進める際は、現地スタッフにかなり助けてもらいましたが、英語でのメールやりとりや、英語の資料を読むことなど、とにかく時間がかかり、英語を自由に使えないことにストレスを感じる毎日でした。

ただ、シドニー事務所が主催するクレアフォーラムにプレゼンターとして参加したことで自信をつけることもできました。このフォーラム



シドニー日本祭りで日本の自治体をPR

は、日豪共通の課題をテーマに日豪の自治体関係者がプレゼンテーション、パネルディスカッションなどを行い、課題解決に向けて意見交換を行うものなのですが、特にパネルディスカッションは何を質問されるかわからない状況であったため、とても緊張しました。実際、本番では質問内容がよくわからず冷や汗だらだらでしたが、このことがきっかけで、プレゼンテーション、一対一の会話であれば、英語でも何とかなんと逆に自信が持てるようになりました（パネルディスカッションのようなことはまだまだ難しいですが…）。和歌山県では海外出張は基本的に一人で行きます。シドニー勤務前では考えられなかったことですが、英語が通じるところであれば、ビビることなく一人で出張できるのも、この冷や汗をかい



クレアフォーラムでプレゼンターとして登壇

### プロフィール

- 現在の所属・役職：  
和歌山県商工観光労働部観光局観光交流課 副主査
- CLAIRでの所属：  
2013年4月～2014年3月：東京本部  
2014年4月～2016年3月：シドニー事務所 所長補佐  
2016年4月～：現職